

子どもの豊かな気づきや感じとりを育む支援

1 はじめに

物語の読みとり学習の楽しさは、物語の展開や登場人物の気持ちを読みとり児童自身が登場人物になりきってことばや体全体で表現することにより、楽しさが増すものである。

児童は、お話しを聞きながら戸をたたく場面では、「トントントン」と登場人物の言葉を言ったり、「次は、〇〇がでるよ。」と見通しを持ってお話し展開を言ったり、登場人物の行動の変化を読みとったりしている。このように児童は、見通しを持ってお話しを読みとっていきながら、児童自身が様々なことに気づいたり、感じたり、表現しているのである。

本学級では、物語の読みとり学習で絵本を読んだ後、児童一人ひとりの表現力を育むために劇遊びや絵本づくりを取り入れている。児童は、物語の学習において見通しを持ちながら気づいたこと感じたことを絵本に表したり、劇遊びで表現をしている。

物語文の学習に関する児童の学習の様子と学習に対する見通しの教師の具体的な支援の方法は、表1のとおりである。絵本づくりをとおしての物語の学習の実践から感性を育む支援のあり方について述べたい。

学習のステップ	見 通 し	め あ て	支 援 の 方 法
<ul style="list-style-type: none"> ・話す方に関心がないように思われる。 ・物語を話す人に注意する。 ・特定の場面で表情が変わる。 ・特定の場面の繰り返しの言葉を言ったり、身体を動かすことが見られる。 ・特定の登場人物を言ったり、示したりする。 ・特定の登場人物の特徴のあることばを話したり書いたりする。 ・大まかなあらすじをとらえ次にどんな展開になるか話したり書いたりする。 ・物語の内容をつかみ、登場人物の会話やまわりの様子を書いたり話したりする。 ・友だちの話を聞いて、登場人物の気持ちやまわりの情景を想像力を深めて話したり書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な指導者の指示があればわかる。 ○具体物があればわかる。 ○ことばかけがあればわかる。 ○部分的な活動は理解している。 ○自分から活動する。 ○全体の流れがわかっている。(学習の中で主体的に活動できる。) 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇をしよう (個の課題に迫るもの) 学習の中で〇〇の活動を自分たちでしよう。 学習全体の見通しをもって、自分たちでいろいろな活動をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に好きな物が入った物語を選択する。 ・効果音や効果音楽を取り入れる。 ・繰り返しの動作や繰り返しの言葉のある物語を選択する。 ・ペーパーサートや絵カードを提示する。 ・登場人物をシールで構成できる絵本づくりを設定する。 ・場面の変化、まわりの様子がわかる紙芝居を製作し提示する。 ・劇あそびの場を設定し配役を固定しない。 ・紙芝居と同じ絵を使って絵本づくりをする。 ・絵をもとに登場人物の会話や動作、まわりの情景を引き出す声かけをする。 ・劇化の練習をする。 ・友だちと絵本を発表する。

(1) 授業仮説

本単元の学習にあたって次のような授業仮説を設定した。

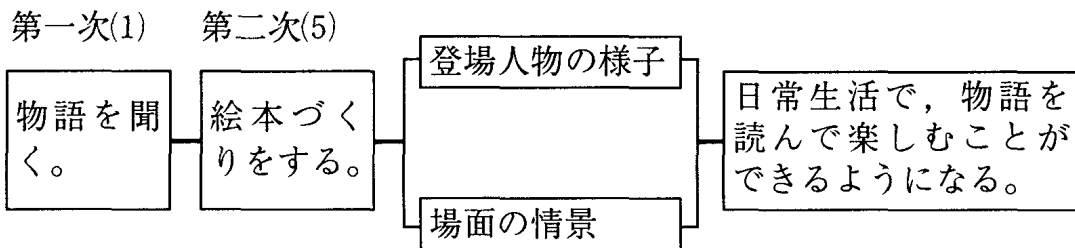
個に応じたことばかけをするならば、文字や言葉で登場人物や周りの様子を豊かに表現するであろう。

(2) 指導目標

- ・ やさしい物語を読んで楽しむことができるようにする。
- ・ 登場人物の言葉を考えたり、物語の場面の情景やとらえて自分なりに文にできるようにする。

(3) 指導内容と計画

指導内容・・・6時間



(4) 授業の実際例（第2次第3時）

① 本時の目標

物語の一場面を見て、その様子や登場人物の言葉や考えて文に表現することができる。

② 目標行動と具体的な教師の支援

児童の目標行動と支援の方法を次のように設定した。

	目 標 行 動	指 導 者 の 支 援	児 童
話 す 事 件	登場人物の会話を話すことができる。	〇〇は、何を言っているのかなと声をかける。	⑮
	登場人物の会話や動作を話すことができる。	〇〇は、何を言っているの、何をしているのと声をかける。	⑭⑯
	登場人物の会話や動作と周りの様子を話すことができる。	〇〇のまわりは、何があるのかなと声をかける。	⑬
書 く 事 件	〇〇が〇〇しましたという文を視写することができる。	きれいに書いたね、次もよく見て書こうと賞賛・激励する。	⑭
	〇〇が〇〇しましたという文が声かけにより書くことができる。	発言したことをそうよそれを書こうと励ます。	⑮⑯ ⑬
	〇〇が〇〇しましたという文が一人で書くことができる。	一人でがんばって書こうねと激励する。	

2 指導事例「ちょうふく山の山んば」の絵本をつくろう

養護学級高学年組（5・6年生4名）

(1) 絵本づくりについて

本学級の児童は、これまで物語文読みとり学習に絵本づくりを経験している。絵本づくりは、登場人物の理解やあらすじを読みとるだけでなく、場面の情景の気づいたこと感じたことを自分なりに表現したり、登場人物になりきって動作や言葉で表現することにより、自己表現力を高めていくものである。絵本づくりは、一場面、一場面の変化で物語の見通しを持ちやすいことから、一人ひとりの児童が言葉や文字による表現を活発にするとともに豊かな感性「気づき」「感じる」「表現する」を育むものと考えられる。

(2) 物語「ちょうふく山の山んば」と絵本の場面設定について

昔話「ちょうふく山の山んば」は、登場人物の性格がはっきりしており、場面の展開も変化があり、また繰り返しの動作もあるので児童にとって親しみやすいお話しと考えて絵本づくりに取り上げた。

絵本づくりでは、変化のある場面を6つ選択して設定した。

本学級の児童は、5年生3名、6年生1名である。物語の読みとりやその文章化に関する児童の実態と課題を次の表2のようにとらえた。

表2

	実 態	課 題
⑬	物語を開いて、登場人物や大まかなあらすじを発表することができる。物語の場面を見て様子を一人で書くことができる。	物語の場面を見て、その様子や登場人物の会話を自分なりに考えて文に表すことができるようになる。
⑭	物語を聞いて、登場人物やあらすじを断片的に発表することができる。表現したことの板書を複写して書くことができる。	物語の場面を見て、その様子や登場人物の会話を発表し、その板書を確実に複写することができるようになる。
⑮	物語を聞いて、登場人物や印象に残ったことを発表することができる。物語の場面を見て言葉かけにより一人で書ける。	物語の場面を見て、その様子や登場人物の会話を発表し、言葉かけがなくても文に表すことができるようになる。
⑯	物語を聞いて、登場人物や印象に残ったことを発表することができる。物語の場面を見て言葉かけにより一人で書ける。	物語の場面を見て、その様子や登場人物の会話を考えて、言葉かけがなくても文に表すことができるようになる。

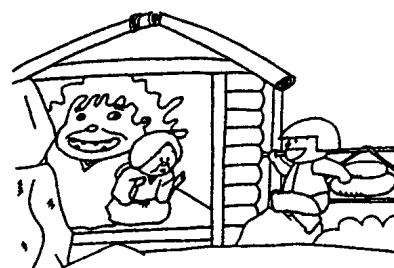
③ 学習の展開

学 習 過 程	予想される活動	指導・支援活動	
		全 体	個 別
1 はじめの挨拶をする。		1 学習の始まりとして毎時間位置づける。	1 挨拶はこの日の当番がする。
2 紙芝居を見る。	2 登場人物の言葉を言いながら楽しく見るであろう。(児⑬⑭⑮⑯)	2 ゆっくり感情をこめながら読む。	2 一人ひとりの児童の言葉に相槌をうつ。
3 これまで書いた場面を見て振り返る。	3 絵を見ながら話さずであろう。(児⑬⑭⑮⑯) ・自分のを先にしてほしいと言うであろう。(児⑭⑮)	3 自分が書いた内容を振り返えさせ、絵本づくりに意欲を湧かせる。	3 順番に提示し、友だちの見えるように声をかける。(児⑭⑮)
4 本時の場面を見て絵本プリントに書く。	4 絵を見て様子を次々と話すであろう(児⑬⑭⑯) ・発言をためらうであろう。(児⑮) ・場面の様子を考えて一人で書くであろう。(児⑬) ・発言したあとすぐに書きたがるであろう。(児⑭) ・「書いてもいい」と同意を求めるであろう。(児⑮⑯)	4 一人ひとりの小さな発言をも受けとめて「そうだね。」と言葉で返し全体に話す。 ・「この人は、何を言っているのかな。」「なにをしているのかな。」等人物の気持ちや場面の様子を考えさせるような発問をする。	4 発言をためらっている児童に声かけの応援をする。(児⑮) ・時々声かけして書くことを激励をする。(児⑬) ・発言内容を板書したものを視写させる。(児⑭) ・声かけをして書くことに自信を持たせる。(児⑮⑯)
5 絵本の発表会をする。		5 一人ひとりの発表を賞賛する。	
6 終わりの挨拶をする。		6 学習の終わりとして位置づける。	6 挨拶は、この日の当番が行う。

(8) 考察

児童は、絵本づくりの学習を毎時間楽しみにして、場面の絵を見ながら一人ひとり気づいたこと感じたことを表現豊かに書いていった。

前述の授業例場面③の学習での児童の書いた児童の文章をそれぞれあげながら、教師の支援について考察を行う。



場面③

児童の記述内容と目標行動の達成の視点から見た分析は、次の表3のとおりである。児童の記述内容と教師の支援について授業仮説の視点からみる。

表3 児童の記述内容と分析

児童	児童の記述内容	分析
児⑬	やまんばがやまからはよもちもてこいをいいました。まるがもちもてきました。やまんばがはよもちたべたいといいました。やまんばがはよどあをあけるといいました。まるがどあをあけました。やまんばとまるがはやくもちたべたいといいました。	目標行動「〇〇が〇〇しましたという文がひとりで書くことができる」が達成されている。「はよどあをあける」など、絵から想像した文章表現も見られる。
児⑭	やまんばがもちもってこいといいました。おばあさんがもちをやまにおきました。まるがもちもてきました。やまんばがもちもてこいといいました。おばあさん	目標行動「〇〇が〇〇しましたという文を視写することができる」が、達成されている。
児⑮	やまんばがおもちをたべました。だれじゃとおこりました。まもがもちもってきたようといいました。おばあちゃんがまるをみました。おばあちゃんがそうじをしました。まるがおもちをたべました。	教師のことばかけと板書による支援を受けながら、登場人物の会話や動作を表現することができた。
児⑯	やまんばがまるやもちもってこいをしました。やまんばがおこりました。やまんばとおばあさんはなしをしました。かもやすとごんろくがにげました。やまんばとまるとおばあさんもちたべました。まるもちもってこいしました。	一人で考えることができた。板書による支援も受けながら登場人物の会話や動作を表現することができている。

(下線は筆者)

児⑬は、「やまんばが、はよもちをたべたい。」とやまんばの気持ちを感じて書いた。また「やまんばが、はよどあをあけるといいました。まるがどあをあけました。」と山んばの言葉に対するまる（山んばの子）の行動を想像して自分から書いている。「気づいたことをひとりで書いてごらん。」の教師の言葉かけによる支援によって登場人物の気持ちや行動に自ら気づき、感じて表現することができた考える。

児⑭は、「〇〇は、何をいっているのかな。」と問いかけに「もちもってこいといいました。」や「おばあさんがもちをやまにおいてきました。」と気づいたこと感じたことを書いている。しかし、発言したことの板書を見て書くことを課題としていた児⑭に対して「よく見てごらん。」と書くことばかり声かけすることが多くなり、児⑭の気づきや感じたことの発言を結果的に聞き逃すことになった。

児⑮は、「だれじゃとおこりました。」と山んばの気持ちに気づいたことや「おばあちゃんがまるをみました。」と状況を想像したことを発言して書いている。児⑯は、「やまんばとおばあさんが はなしをしました。」とやまんばと一緒に座っている情景から気づいたことを発言して書いた。また、「やまんばとおばあさんは もちをたべました。」と山んばは、もちをおばあさんにもたべさせてあげるだろうとやまんばのやさしい気持ちを感じとって発言して書いている。

児⑮と児⑯の発言に「そう、それを書こうね。」と声かけの支援により書くことを課題としていたが、書くことにためらいが時々見られたので、急遽一部板書による視写をするように支援を加えていった。こうした支援により二人は、気づいたこと、感じたことを書くことができたと考察する。

3 おわりに

授業の見通しとめあて（目標行動）と支援の方法の視点から前述の授業例を分析する。本学級の児童の授業の見通しとめあて（目標行動）と支援の方法は、次のとおりである。

授業の見通し	めあて（目標行動）	支援の方法
全体の流れがわかっている。	学習全体の見通しをもって、自分たちでいろいろな活動をしよう。	児童の姿に共感したことを表現する。イメージを広げる声かけをする。

動かない絵をみて、本学級の児童は「やまんばが、はやくもちをたべたいといいました。」や「やまんばが、はよ、どあをあけろといいました。」と登場人物の気持ちを想像して表現している。絵本づくりにおいて、次はこうなるのでは、ここでこんなことをいっているんだという児童自身の想像力は、学習に見通しをもつことであり、児童は、主体的に活動していると考ええる。

この見通しをもって活動することが、日々の生活や学習活動において児童自らいろいろなことに気づき・感じて次はこうしようと主体的に能動的に活動し表現していくことへつながるものと考ええる。

本単元の学習において、場面②の絵の中で草履を片方ぬいであわてて逃げている様子に注目した児童は、「ごんろくがくつをぬいでにげました。」と発言した。そのことに気づかなかった教師は、「そう、よく気づいたね。それを書いてごらん。」と共感した声かけの支援をしている。しかし、授業を振り返ると児童の発言に気づかなかったり、イメージを広げる声かけの支援を考えておりながら、実際の授業では、その声かけがないこともあった。

授業を振り返って、児童一人ひとりが、学習活動にどんな見通しをもっているかをしっかり受けとめ、どんな支援をしていくのかを教師自身が見通しをもつこと、様々なことに気づいて表現する児童に共感し受けとめたものを児童に返す教師自身の表現力の豊かさの大切さを痛感している。児童の気づきや感じるものを育む支援を今後も探っていきたい。（伊藤 福男）